



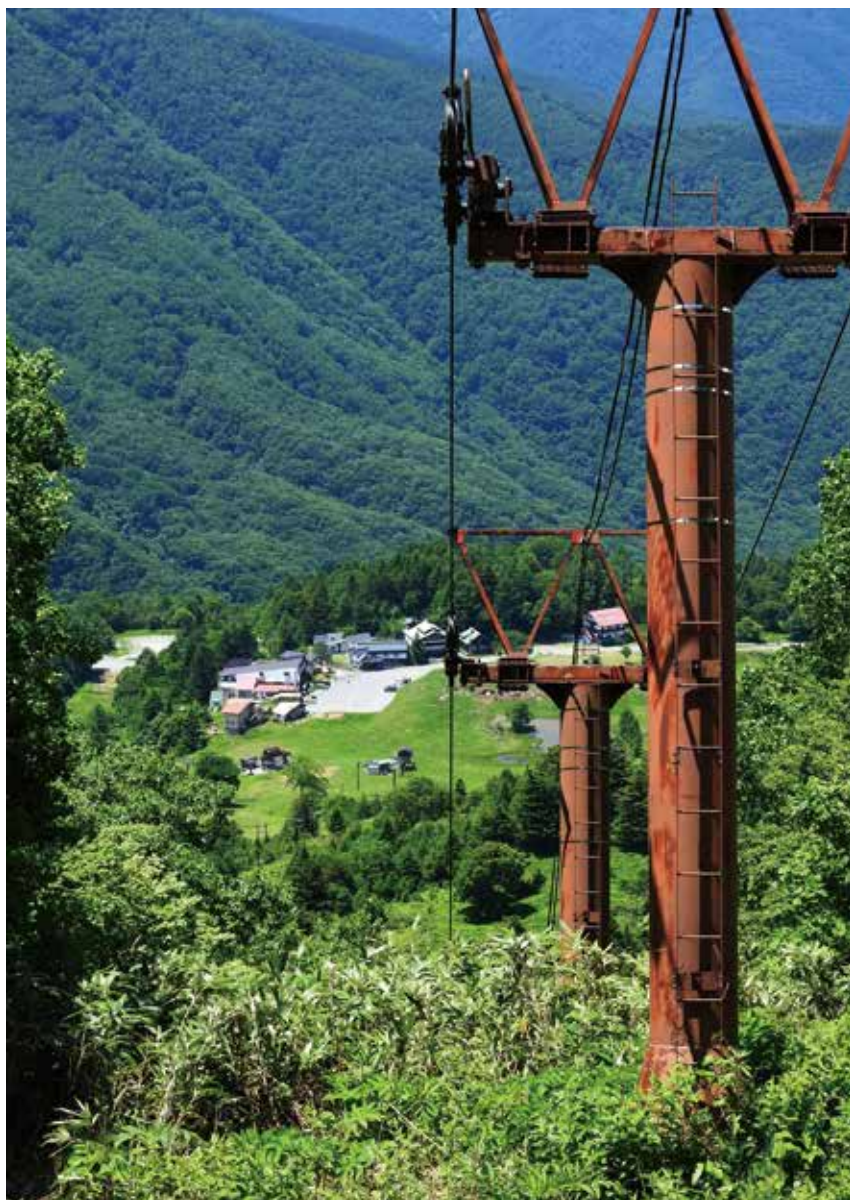
地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

景況調査レポート



上高井郡 高山村
山田牧場

標高1500m～1750mに位置し、牧歌的な風景から信州のチロルとも呼ばれる山田牧場。冬季は自然地形を生かした、非圧雪斜面のゲレンデへと変貌します。リフト下の斜面に生い茂るチシマザサ。戸隠の竹細工やサバ缶入りの味噌汁で有名な「根曲がり竹」の正式名称は、この「千島笹」という大型の笹とのこと。

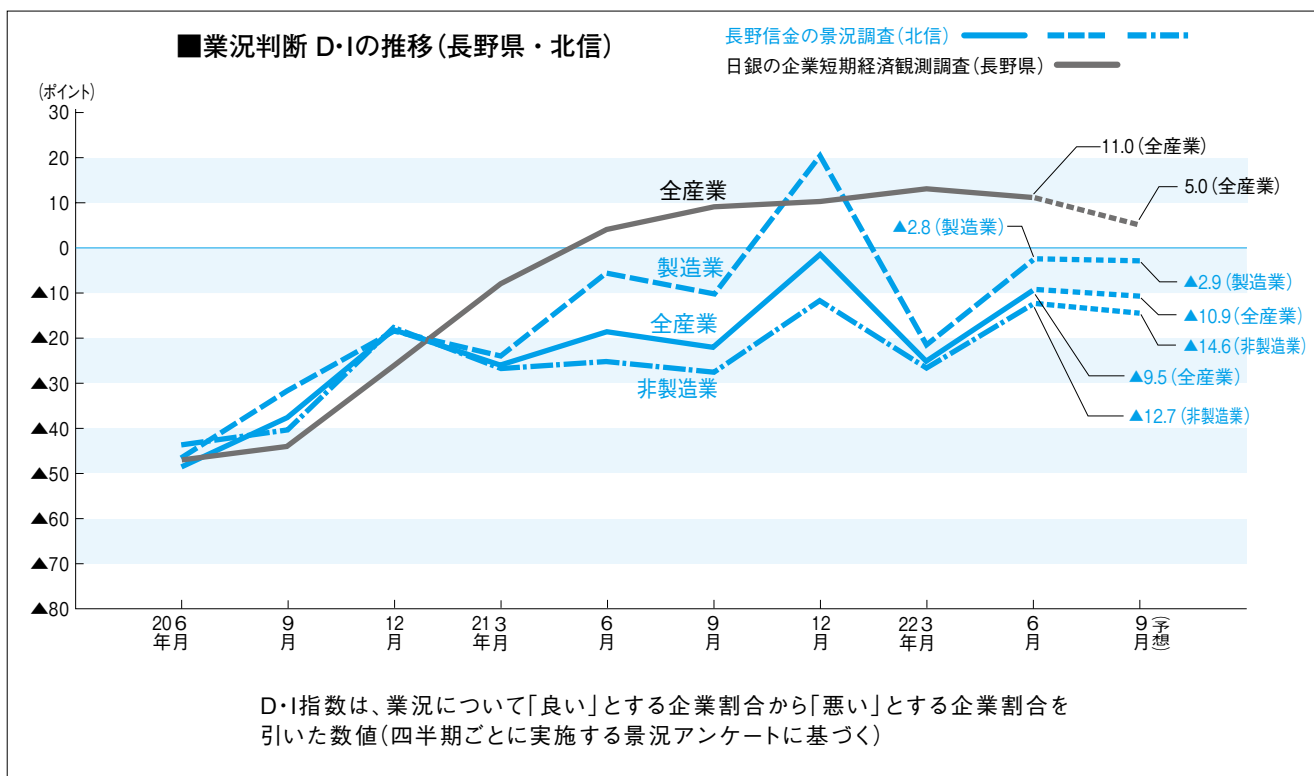
■ 長野しんきん 景況調査レポート	2
■ 企業アンケート コロナ禍における 「企業経営」Ⅱ-①	6
■ 生活者アンケート コロナ禍の日常生活 ①	9
■ 北信濃 明治時代の風景(4) 城山から西方を見た図	10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



景況調査レポート 概況 (第188回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2022年4～6月期…景気の現状 ◇2022年7～9月期…景気の見通し



全産業▲25 → ▲10 製造業・非製造業ともに改善

2022年4～6月期の業況判断D・Iは、全産業で16ポイント改善して▲10となりました。製造業は19ポイント改善の▲3、非製造業も14ポイント改善の▲13です。

2022年7～9月期の全産業の業況判断D・I(予想)は、1ポイント悪化の▲11となりました。

◆北信地区の4月～6月期の業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	▲25	▲10 (15ポイント改善)	▲11
製造業	▲22	▲3 (19ポイント改善)	▲3
非製造業	▲27	▲13 (14ポイント改善)	▲15

非製造業▲27 → ▲13 建設業は悪化

非製造業の業種別業況判断D・Iは、建設業が▲11(前期比▲2ポイント)、卸小売業が▲29(同+10ポイント)、

◆非製造業の業種別業況判断D・I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	▲27	▲13 (14ポイント改善)	▲15
建設業	▲9	▲11 (2ポイント悪化)	▲10
卸小売業	▲39	▲29 (10ポイント改善)	▲29
サービス業	▲41	+2 (43ポイント改善)	▲7

サービス業が+2(同+43ポイント)となり、建設業が悪化しています。

◆売上高D・Iと収益判断D・I

	売上高D・I(「増加」-「減少」)		収益判断D・I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	▲27	+5(改善)	▲30	▲10(改善)
製造業	▲34	+10(改善)	▲34	▲14(改善)
非製造業	▲24	+3(改善)	▲28	▲8(改善)

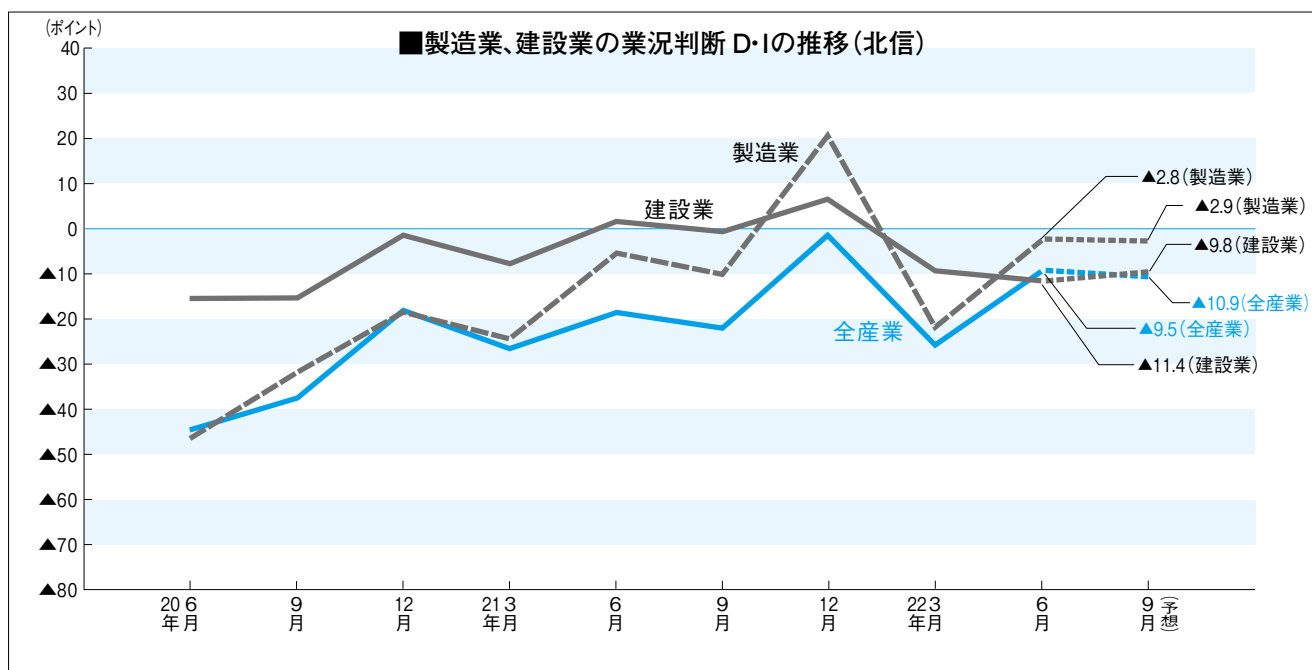
●北信地区の業況判断D・Iの推移

	2021年9月	12月	2022年3月	6月	9月(予想)
全産業	▲22.0	▲1.4	▲25.1	▲9.5	▲10.9
製造業	▲10.1	+20.6	▲21.5	▲2.8	▲2.9
非製造業	▲27.5	▲11.9	▲26.8	▲12.7	▲14.6

[調査要領]

●調査実施……2022年6月
●調査対象企業(回収)
製造業……70社
建設業……61社
卸小売業……45社
サービス業……46社

合計……222社
●回収率……88.5%
●従業員規模
30人未満……74.3%
●分析…D・I判断指数
を中心に分析



製造業の景況

19㊦改善して▲3に、来期は横ばいの予想

製造業の4～6月期の業況判断D・Iは▲3で、前期(▲22)に比べ19㊦改善となりました。7～9月期は今期より横ばいの▲3の予想です。

	(前期)	1～3月期	▲22
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	▲3
	(来期)	7～9月期	▲3(予想)

◇業種別業況判断D・I

改 善	食料品・金属加工・精密機械
悪 化	一般機械・電気機械・自動車部品

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲14 (20㊦改善)

「増益」割合 前期 11% → 24% (13㊦増加)

「減益」割合 前期 46% → 39% (7㊦減少)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期 41% → 42% (1㊦増加)

「収支トントン」 前期 45% → 39% (6㊦減少)

「赤字」 前期 15% → 19% (4㊦増加)

企業からのコメント

- ☆★まずまずの受注はあるが、原材料の輸入が遅れ気味に加え、機械修理等の部品も輸入しているため工期が遅れている。(一般機械)
- ★商品を梱包するビニールの品不足によって、納期が通常の3倍ぐらにかかっている。(食品加工)
- ★昨年から続くそば粉の値上げに加え、“ウクライナ情勢”を受けて、小麦粉の価格もさらに上昇。利益を出すためには、売価の変更が必要となり、さらに厳しくなる見込み。(信州そば)

建設業の景況

2㊦悪化して▲11に、来期は改善の予想

建設業の4～6月期の業況判断D・Iは▲11で、前回(▲9)に比べ2㊦悪化しています。7～9月期は今期より1㊦改善の▲10の予想です。

	(前期)	1～3月期	▲9(自動車運輸)
◆業況判断D・I	(今期)	4～6月期	▲11
	(来期)	7～9月期	▲10(予想)

◇業種別 総合建設 前期 +30 → +22 (8㊦悪化)

土木工事 前期 +7 → ▲23 (30㊦悪化)

建 築 前期 ▲33 → ▲19 (14㊦改善)

各種設備 前期 ▲9 → +20 (29㊦改善)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲12 (6㊦悪化)

「増益」割合 前期 19% → 14% (5㊦減少)

「減益」割合 前期 26% → 26% (横ばい)

◆現在の採算状況…悪化

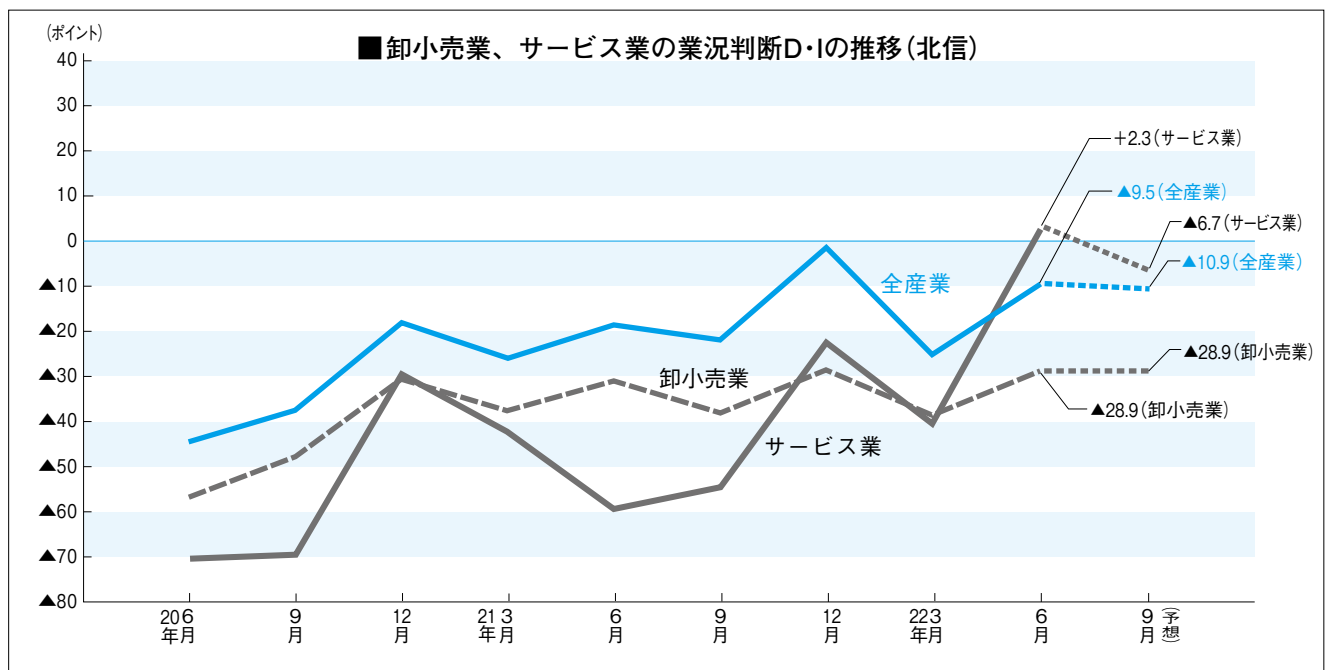
「利益確保」 前期 34% → 42% (8㊦増加)

「収支トントン」 前期 59% → 54% (5㊦減少)

「赤字」 前期 8% → 4% (4㊦減少)

企業からのコメント

- ☆★建築物件の見積り依頼はあるが、資材の高騰で建築費が高く、見送りになる物件もある。
- ★「ウッドショック」による木材の値上げに続き、“ウクライナショック”による木材・石油二次製品の相次ぐ値上げで、材料費増加による収益性の減少が顕在化している。(以上総合建設)
- ★木材・合板・設備機器などが流通不足で納入時期が見通せず、工程管理が難しい。(建築)



卸小売業の景況

業況は10割改善の▲29、来期は横ばいの予想

卸小売業の4～6月期の業況判断D・Iは▲29で、前回（▲39）に比べ10割改善しました。7～9月期の業況判断D・Iは横ばいの▲29の予想です。

	（前期）	1～3月期	▲39
◆業況判断D・I	（今期）	4～6月期	▲29
	（来期）	7～9月期	▲29（予想）

◇業種別	卸売業	前期 ▲53 → ▲29（24割改善）
	小売業	前期 ▲30 → ▲29（1割改善）

◆収益判断D・I（「増益」－「減益」）…▲18（41割悪化）

「増益」割合 前期 12% → 16%（4割増加）

「減益」割合 前期 52% → 33%（19割減少）

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期33% → 34%（1割増加）

「収支トントン」 前期42% → 45%（3割増加）

「赤字」 前期26% → 21%（5割減少）

企業からのコメント

- ★新車の納車については引き続き不安定。中古車も全体的に価格が上がっている。（自動車販売・修理）
- ★冷蔵庫・洗濯機・エアコン等主要な家庭用電化製品の不足が目立ちます。（家電販売）
- ☆★「善光寺御開帳」で4～6月の売上げは好調に推移したが、7月以降はどうか不安。（土産品）
- ★後発医薬品（ジェネリック）メーカーの不祥事等によって供給・流通が滞り、入手不足になる品目が出るのではと案じている。（一般医薬品販売）

サービス業の景況

43割改善の+2、来期は悪化の予想

サービス業全体の4～6月期の業況判断D・Iは+2で、前回（▲41）と比べ43割改善しました。業種別では、輸送・タクシー・外食・観光・不動産が改善し、サービスと運輸が悪化しています。7～9月期の業況判断D・I（予想）は9割悪化の▲7です。

	（前期）	1～3月期	▲41
◆業況判断D・I	（今期）	4～6月期	+2
	（来期）	7～9月期	▲7（予想）

◇業種別業況判断D・I

サービス 前期 ▲13 → ▲38（25割悪化）

輸送 前期 ▲60 → ▲33（27割改善）

タクシー 前期 ▲100 → +33（133割改善）

運輸 前期 ▲43 → ▲67（24割悪化）

外食 前期 ▲71 → ±0（71割改善）

観光 前期 ▲78 → +50（128割改善）

不動産 前期 +10 → +30（20割改善）

企業からのコメント

- ★貨物量は低調な状況が続いている。さらに人員不足のために外注を利用しており収益性の悪化につながっている。（トラック輸送）
- ★「善光寺御開帳」の開催で観光客は来ていたが、売上げは前回の御開帳に比較すると少ない。コロナ前2019年の売上げには戻らない。（タクシー）
- ★そば粉・小麦粉・油など原材料の値上がりで、商品価格を上げる店もあると聞いている。（そば店）
- ★昼間の客足はコロナ前近くに帰ったが、依然として夜間の動きが悪い。（タクシー）

雇用情勢 4～6月期

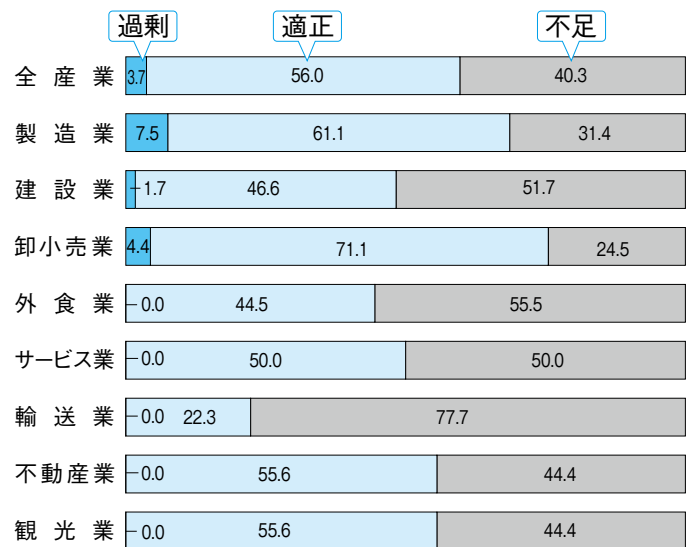
製造・建設が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲37となり、前回(▲35)より2ポイント悪化しています。

雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業 種	前期(1～3月)	今期(4～6月)
全産業	▲35.1	▲36.6
製造業	▲27.2	▲23.9
建設業	▲50.8	▲50.0
卸小売業	▲19.0	▲20.1
外食業	▲42.8	▲55.5
サービス業	▲50.0	▲50.0
輸送業	▲50.0	▲77.7
不動産業	▲30.0	▲44.4
観光業	▲30.0	▲44.4

従業員の過不足感 (%)



(資料:当金庫)

資金繰り 4～6月期

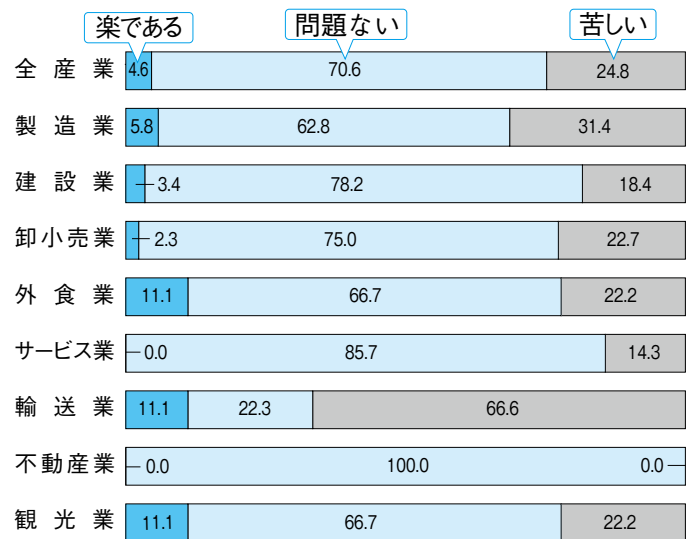
建設・卸小売・外食・観光が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲20となり、前回(▲22)より2ポイント改善しています。

資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業 種	前期(1～3月)	今期(4～6月)	来期(7～9月)
全産業	▲21.7	▲20.2	▲20.1
製造業	▲18.8	▲25.6	▲22.0
建設業	▲20.3	▲15.0	▲12.1
卸小売業	▲23.3	▲20.4	▲18.6
外食業	▲14.3	▲11.1	▲11.1
サービス業	▲12.5	▲14.3	▲37.5
輸送業	▲40.0	▲55.5	▲77.7
不動産業	±0	±0	±0
観光業	▲60.0	▲11.1	▲22.2

資金繰り状況感 (%)



(資料:当金庫)

販売価格動向 4～6月期

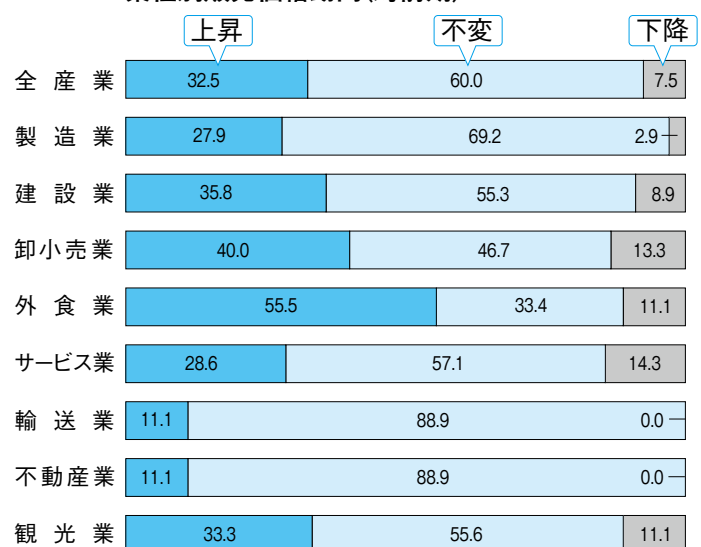
卸小売・外食・サービス・輸送・観光が上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+25となり、前回(+22)に比べ3ポイント改善しています。

販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

業 種	前期(1～3月)	今期(4～6月)	来期(7～9月)
全産業	+21.8	+25.0	+23.3
製造業	+28.4	+25.0	+24.6
建設業	+27.5	+26.9	+26.8
卸小売業	+23.3	+26.7	+25.6
外食業	±0	+44.4	+22.2
サービス業	+12.5	+14.3	±0
輸送業	▲10.0	+11.1	+11.1
不動産業	+33.3	+11.1	+22.2
観光業	▲20.0	+22.2	+11.1

業種別販売価格動向(対前期) (%)



(資料:当金庫)

原材料不足や価格の高騰、モノ不足等の影響

「多大な影響」41% 「やや影響」52% 「影響はない」4%

具体的な影響

「調達価格の上昇」58% 「コスト増大による業績への影響」51%

「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」33% 「部品・材料不足による減産」18%

「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」6%

原材料不足や価格の高騰、モノ不足等の影響

「多大な影響がある」は41%、「やや影響がある」は52%で、「影響はない」は4%となっています。

具体的な影響 「調達価格の上昇」(58%)をはじめ

「コスト増大による業績への影響」(51%)、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(33%)、「部品・材料不足による減産」(18%)、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(6%)となりました。

原材料不足や価格の高騰・モノ不足等の影響

「多大な影響がある」41% } 計93%
「やや影響がある」52% }
「影響はない」4%

「企業活動で、原材料不足や価格の高騰、部品製品のモノ不足等の影響があるか」を聞きました。

「多大な影響がある」は41%、「やや影響がある」は52%で、「影響はない」は4%となっています。

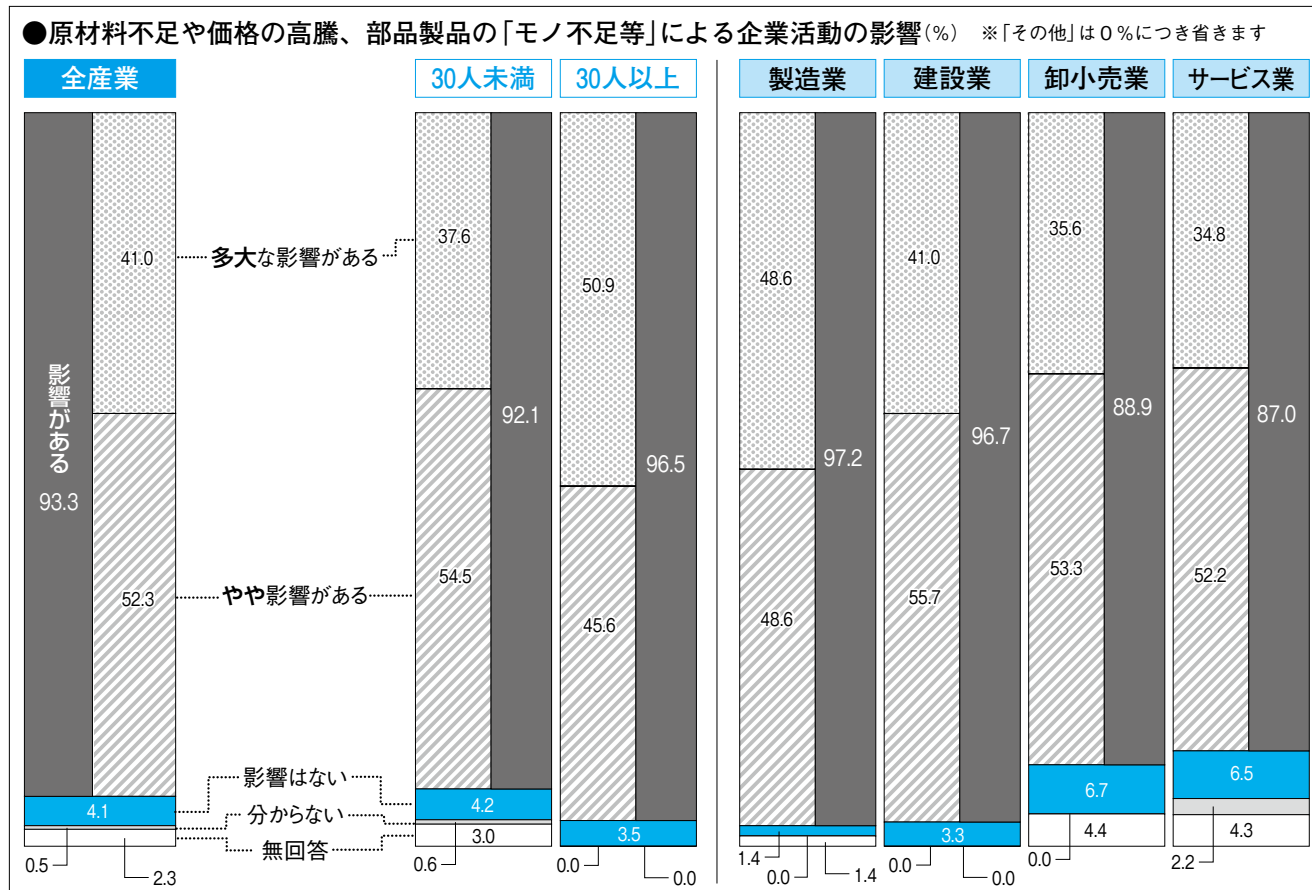
従業員規模で見ると、30人未満は「やや影響がある」(55%)が30人以上より9%高く、30人以上は「多大な影響がある」(51%)が30人未満より13%高くなっています。

業種別

やや大きい 製造・建設の影響

◇4業種の状況

製造業 「多大な影響がある」と「やや影響があ



る」は同率の49%で、「影響はない」は1%という結果でした。

建設業 「多大な影響がある」は41%、「やや影響がある」は56%で、「影響はない」は3%です。

卸小売業 「多大な影響がある」は36%、「やや影響がある」は53%で、「影響はない」は7%です。

サービス業 「多大な影響がある」は35%、「やや影響がある」は52%で、「影響はない」は7%です。

具体的な影響

「調達価格の上昇」58%

「コスト増大による業績への影響」51%

「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」33%

「部品・材料不足による減産」18%

「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」6%

「影響がある」と答えた93%の企業に、その「具体的な影響」(複数回答)を聞きました。

「調達価格の上昇」(58%)がトップで、以下「コスト増大による業績への影響」(51%)、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(33%)、「部品・材料不足による減産」(18%)、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(6%)、「その他」(1%)

となりました。

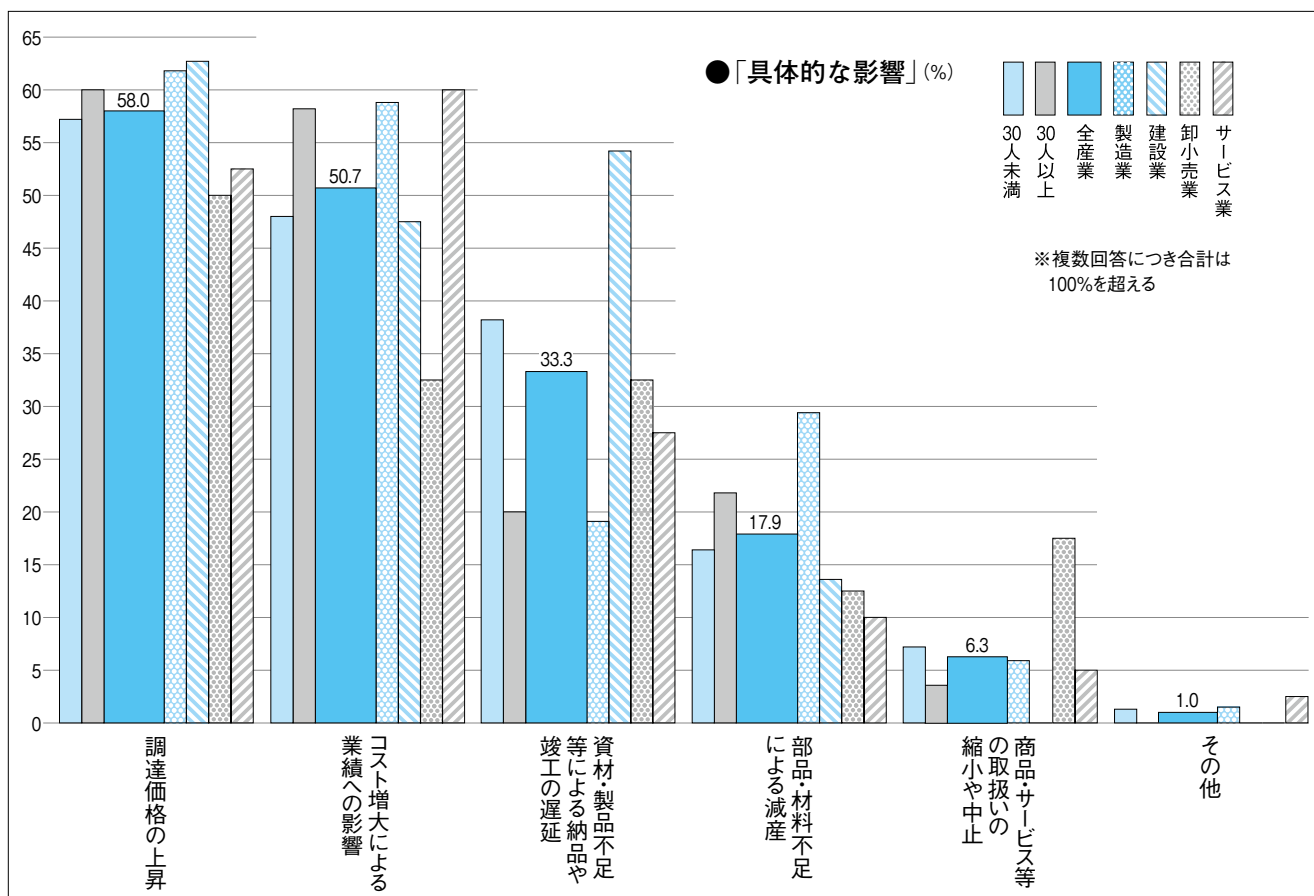
従業員規模で見ると、30人未満は「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(38%)が30人以上より18%高く、30人以上は「コスト増大による業績への影響」(58%)が10%、「部品・材料不足による減産」(22%)が5%、それぞれ30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

製造業 「調達価格の上昇」(62%)がトップで、以下「コスト増大による業績への影響」(59%)、「部品・材料不足による減産」(29%)、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(19%)、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(6%)、「その他」(2%)となりました。

建設業 「調達価格の上昇」(63%)がトップで、以下「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(54%)、「コスト増大による業績への影響」(48%)、「部品・材料不足による減産」(14%)となり、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」、「その他」の回答はありませんでした。

卸小売業 「調達価格の上昇」(50%)がトップで、以下「コスト増大による業績への影響」、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」がともに33%



％、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(18％)、「部品・材料不足による減産」(13％)、という結果でした。

サービス業 「コスト増大による業績への影響」(60％)がトップで、以下「調達価格の上昇」(53％)、「資材・製品不足等による納品や竣工の遅延」(28％)、「部品・材料不足による減産」(10％)、「商品・サービス等の取扱いの縮小や中止」(5％)、「その他」(3％)となりました。

◇次号は「商品やサービスの値上げ予定」と「コスト上昇分をサービスの価格に転嫁」を予定

[調査要領]

実施期日：2022年6月上旬～中旬

実施要領：第184回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収222社(製造業70社、建設業61社、卸小売業45社、サービス業46社)
うち従業員30人未満165社(74.3%)

「ウクライナ危機や新型コロナ感染再拡大」の影響に関する企業からのコメント

製造業

◇仕入商品や原材料の値上げにより納期の目途が立たないなど、通常とは異なる異次元の動きで先が見通せない。(シール・ラベル印刷)

◇輸入品の大豆は、ロシア、カナダ産等も輸送費の増加が価格に大きく反映されて値上りしている。

(味噌・漬物加工)

◇主力製品を構成する樹脂原料、ICタグ、電子部品などで長納期化や調達価格の高騰が発生し、売上げ機会の損失を懸念している。(雑貨製造)

◇経済活動は活発になってきたが、「円安」に加え「ウクライナ危機」による海外からの部品調達には、価格上昇や送料値上げ等の支障が出ている。

(精密機械)

◇「ウクライナ危機」による穀物(特に小麦)の高騰に加え、原油高による包材・電力・運賃などの値上げが収益を圧迫している。(乾麺・生麺・そば製粉)

◇輸入品の円安によるコスト高を販売価格に転嫁できるかが、大きく業績を左右することになる。

(食料品)

◇仕入価格の大幅な上昇や物品等の入荷が困難な状況が続く、その影響は大きい。

(各種プラスチック)

◇原料価格や仕入価格の上昇により、様々な交渉を行いながら情報収集をしていく。(乾麺)

◇小麦価格の高騰の影響が大きく、値上げは必要だと感じるが、値上げした場合、売上げへのダメージが大きいと予想される。(信州そば)

建設業

◇原材料の価格高騰や納期の遅延が、生産性の悪化や収益性の減収につながっている。(総合建設業)

◇建築資材の値上げはあったが、仕事量に関しては影響がなかった。

◇消費者物価の高騰により、「スタグフレーション」が懸念される。不透明な景況が続く可能性が大きい。(以上建設業)

◇資材の高騰や設備機器の不足等の影響から施主様がマイホーム建築のプラン変更を余儀なくされる場合があり大変心苦しい。(建築業)

◇新型コロナウイルスの影響で、元請けからの発注が減少している。(電気設備)

◇燃料代の高騰と資材の値上が利益を圧迫している。(土木工事)

卸小売業

◇「ウクライナ危機」で原材料不足が起き、食品工業製品の生産に影響が大きい。さらに円の独歩安が加わり、日本経済の冷え込みはどうか？ 政府が指導力を発揮してもらいたい。(土産品)

◇燃料の高騰による経費増、自動車部品の供給不安定に起因している新車納期の極端な長期化を懸念している。(自動車販売・整備)

◇スポーツイベントの全面再開を強く望む。(スポーツ用品)

◇建築資材の品不足と価格の上昇により、さらに厳しい状況になるのではと不安になる。(建設資材販売)

◇生活消費材の価格高騰により、不要・不急品商材の購買意欲が減少している。(自動車電装部品)

サービス業

◇新型コロナウイルスは収まりつつあり、「県民割り」のおかげで春先の売上はコロナ前に戻る。ただし「ウクライナ危機」は影響大。「観光」は「平和産業」なので…。(日本旅館)

◇原油価格の高騰による軽油価格の上昇は、輸送サービスを行うわが社には痛手。(トラック運輸)

◇コロナの位置づけを「5類」相当にして、経済をまわしてほしい。(タクシー)

◆「2類相当」から「5類」への引き下げ

「5類に変更」39% 「2類相当を維持」11% 「どちらとも言えない」35%

◆不安や困ること

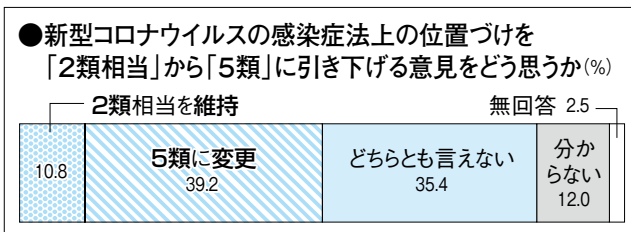
「見通しが不透明」66% 「物価の上昇」43% 「外出・移動の制限」39% 「行事やイベントの中止」31%

「新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを「2類相当」から「5類」（季節性インフルエンザ等）に引き下げるべきとの意見をどう思うか」を聞きました。

「5類に変更すべき」39%に対して、「2類相当を維持すべき」は11%に過ぎず、「どちらとも言えない」は35%、「分からない」は12%でした。

男女別で見ると、男性の「5類に変更」47%に対して、「2類相当を維持」は9%、「どちらとも言えない」は30%でした。女性は同様に27%、13%、43%となり、男性の「5類に変更」は女性に比べ20ポイント高くなっています。

世代別で見ると、10～20代は、「5類に変更」37%に対して、「2類相当を維持」は4%、「どちらとも言えない」は38%でした。30～40代は同様に40%、13%、37%、50代以上は40%、13%、33%となり、10～20代の「2類相当を維持」が4%とやや低いほかは大差がありませんでした。



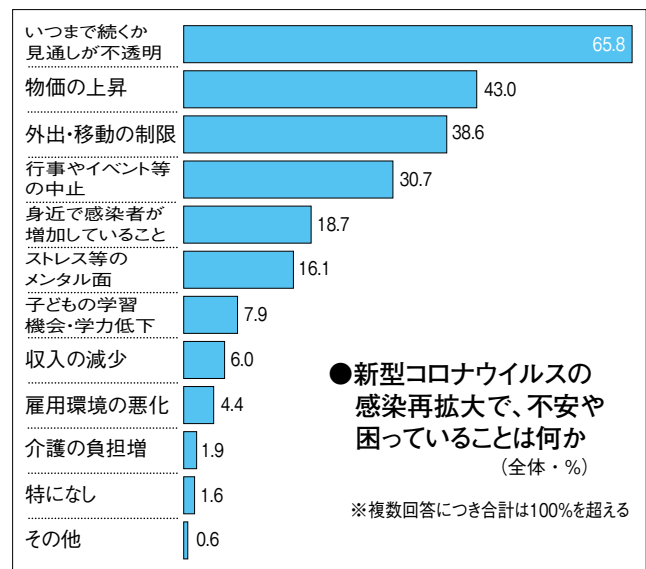
「新型コロナウイルスの再感染拡大で、不安や困っていることは何か」を聞きました。

「いつまで続くか見通しが不透明」が66%、「物価の上昇」が43%、「外出・移動の制限」が39%、「行事やイベント等の中止」が31%となりました。

男女別で見ると、男性の「見通しが不透明」が63%、

「物価の上昇」が47%、「外出・移動の制限」が33%、「行事やイベント等の中止」が31%となりました。女性は同様に70%、37%、48%、31%とやや異なる様相です。

世代別で見ると、10～20代は、「見通しが不透明」が63%、「物価の上昇」が41%、「外出・移動の制限」が45%、「行事やイベント等の中止」が37%となりました。30～40代は同様に63%、46%、40%、29%、50代以上は71%、42%、33%、29%となり、50代以上がやや異なる様相となっています。



[調査要領]

実施期日：2022年6月上旬～中旬

実施場所：長野信用金庫本支店窓口

調査数：316人(男性191人・女性125人)

調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「コロナ禍の日常生活」に関する生活者からのコメント

- ◇ワクチン接種等も進んでいることから、感染対策をしていれば、人との接触の機会の制限は少しずつ緩めていっていいと思います。(20代女性)
- ◇コロナが早く終息し、友人と自由に交流したり旅行に行けたりしたら嬉しい。(20代男性)
- ◇コロナ禍前の日常に戻る過程で、「人に会わなければいけない」というストレスも戻ってくるのだなあと思います。(30代女性)
- ◇飲み会の制限で知人と疎遠になった。制限されない人たちとの差があって孤独を感じている。
- ◇ママ友との交流も少なくなり、情報交換ができなくて不安を感じている。(以上40代女性)

- ◇コロナ発生当初に比べ、現在は予防品が出揃い、ワクチン接種の効果もあるので、周りを見て徐々に自己制限を開放していけばよいと思う。(40代男性)
- ◇友人と飲食しながら会話を楽しむことが出来ず、ストレスの解消が出来ずにいる。(50代女性)
- ◇リモート、WEB、テレワーク等、人との接触を制限するスタイルに移行しつつあるが、相手を理解するには、面談が重要だと感じている。(50代男性)
- ◇友人・知人との直接の会話や情報交換等がなくなり、淋しさを感じている。以前のように、笑顔を交えて話がしたい。(60代女性)

北信濃 明治時代の風景

(4) 城山から西方を見た図

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、明治10年代に各町村が長野県に提出した町村誌に描かれた挿絵を紹介します。今回は明治15年(1882)ころできた『長野町誌』の、「城山ヨリ西望之図」です。

景色のあらまし

長野県立美術館のすぐ東側の高台にある、水内大社(城山県社・健御名方富命彦神別神社)の境内から、西方を眺めた図です。中央に善光寺の本堂が見えます。左に続く家並みが門前町(長野市の中心市街地)です。左下の旗を掲げているのは、長野学校(現在の城山小学校)です。

善光寺の北側には、現在は駐車場などになっている、つばめ池が描かれています。池に沿った建物も見えます。

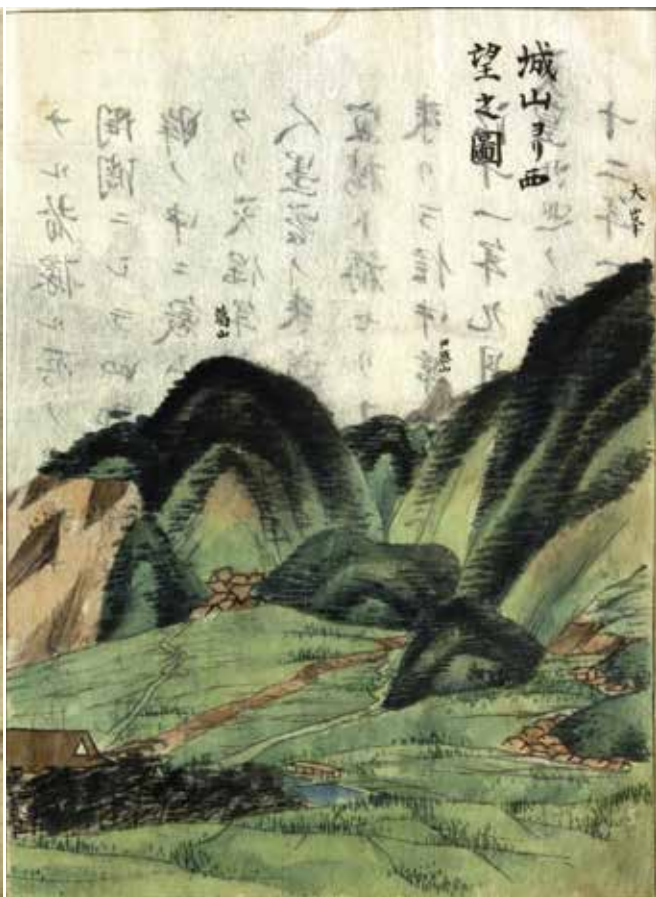
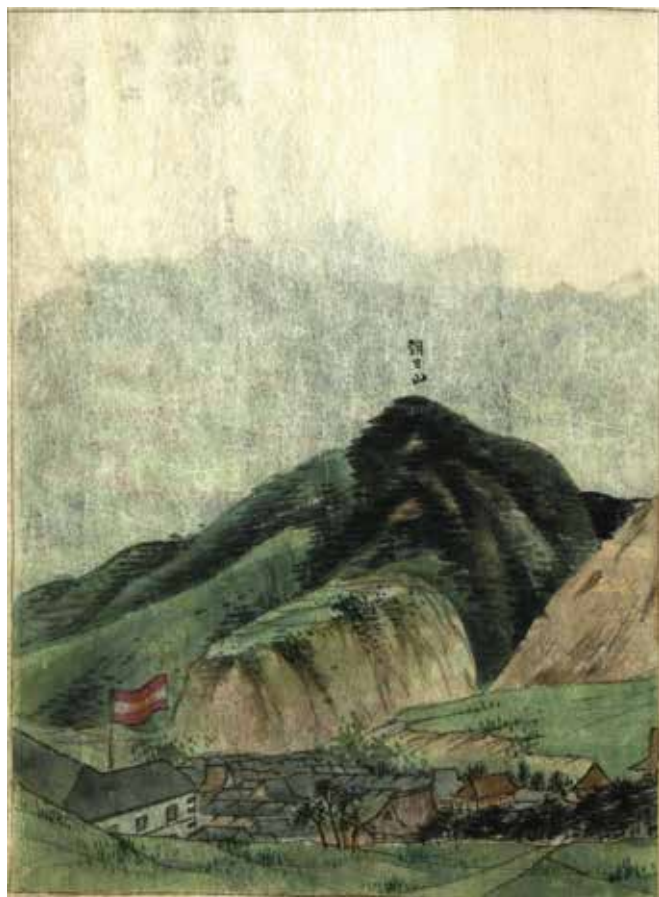
背後には、左から「朝日山」(旭山)、「葛山」^{かつらやま}、「大峯」(大峰山)といった山々が立ち並んでいます。

葛山と大峰山の間からのぞいている「戸隠山」は、戸隠連峰の最高峰、高妻山(標高2353m)でしょう。葛山の下集落は往生地で、大峰山の下は箱清水です。

道と川

善光寺本堂から右上に向かって、3本の筋が伸びています。両側は道ですが、中の筋は色が違って、川であることが分かります。これは湯福川です。湯福川は葛山と大峰山の間を流れ下って、善光寺の北側から東側に回り込み、城山小学校と寛慶寺の間を流れています。

湯福川の右に沿って描かれているのは、善光寺から戸隠に向かう戸隠街道です。善光寺を出た戸隠街道は、小山の左下を通っているうちに湯福川と一緒に、葛山と大峰山の間の谷に向かうように描かれています。この小山が小丸山で、現在



長野町誌(長野県立歴史館蔵)より

はその南側に長野西高校があります。

善光寺本堂から出たもう1本の道は、往生地の集落に通じています。この道は途中で曲がりがありますが、実際にはほとんど直線で、集落の奥の往生寺に突き当たります。かるかや堂往生寺は善光寺の奥の院的な寺で、かつては善光寺参拝者の多くがそこまで足を延ばしました。そのため善光寺～往生寺間の参道

には、両側に土産物店が建ち並んでいました。往生地で早くからリンゴが栽培されたのは、こうした土産物店で販売するためでした。

往生地

往生寺があるために、地名も「おうじょうじ」といい、寺名と区別して往生地と書きます。大字長野と大字西長野にまたがっているのもおもしろいことで、往生寺は大字西長野往生地にあります。桜の名所として知られる往生地公園は、大字長野往生地にあります。

善光寺背後の高台ということで、明治22年(1889)に大砲が設置され、正午を告げる空砲が善光寺平に鳴り響きました。

長野市の水道は、戸隠から引水して大正4年(1915)に給水を開始しましたが、浄水場は往生地に設けられました。浄水場の設備は現在も使われており、土木学会選奨の土木遺産に認定されています。

長野学校

長野県は、東北信全域を管轄するようになった明治4年(1971)11月に、西後町の正法寺(現在の本願寺長野別院)に長野県学校を開校しました。明治5年に学制が公布されると、新しい制度のもとで明治6年に開校したのが長野学校(現在の城山小学校)です。師範学校(現在の信州大学教育学部)も、同じ年にここに置かれた師範講習所に始まっています。

ここはもともと善光寺境内の一部で、常念仏堂



長野県立美術館の屋上広場「風テラス」から見た善光寺方面

がありましたが、その跡地が学校となったわけです。

初代の長野市役所が置かれたのも、この構内でした。明治27年(1894)10月、長野町は長野学校の構内に役場を新築しました。明治30年(1897)4月に長野町は長野市となり、役場はそのまま市役所として使用されました。明治31年11月、長野市役所は若松町に新築されて移転しました。

旭山・葛山・大峰山

背後にそびえる旭山(朝日山)(785m)、葛山(812m)、大峰山(828m)には、いずれも山城がありました。

弘治元年(1555)の第2次川中島合戦の時、武田方に付いた栗田氏は、旭山城にたてこもって善光寺(城山)に陣を置く上杉方に抵抗しました。この時上杉謙信は葛山城を築いて、旭山城に対抗したといわれます。第3次川中島合戦の弘治3年、武田信玄はこの葛山城を攻め落としました。

大峰城は川中島合戦に名前が出てきません。昭和37年(1962)に一帯が開発されて、山頂に大峰城が建てられました。

旭山と大峰山は善光寺のお花山と呼ばれ、善光寺領でした。

8月号は「城山から南西を見た図」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆コロナの変異株等の感染拡大で、自粛(延期・中止)していること(3つ以内)

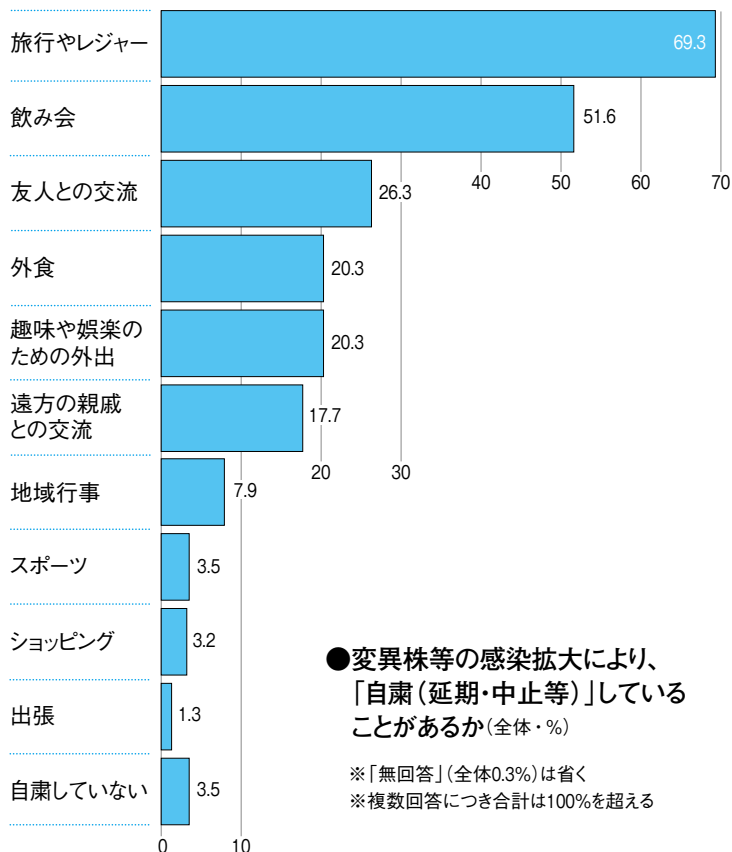
「旅行やレジャー」69% 「飲み会」52% 「友人との交流」26%
「外食」20% 「趣味や娯楽の外出」20% 「遠方の親戚との交流」18%

「新型コロナの変異株等の感染拡大により、現時点において自粛(延期・中止等)していること」を聞きました。

1位は「旅行やレジャー」(69%)、2位は「飲み会」(52%)、3位は「友人との交流」(26%)、4位は「外食」と「趣味や娯楽のための外出」同率(20%)、5位は「遠方の親戚との交流」(18%)となりました。

男女別で1位～5位を見ると、男性は、1位～2位は全体と同じで、3位は「外食」22%となりました。女性は、1位～3位は全体と同じで、4位と6位が入れ替わっています。

世代別で1位～5位を見ると、全体と比べ、10～20代・30～40代・50代以上ともに、1位から3位までは全体と同じで、4位以降が入れ替わっています。
(当金庫・2022年6月調査)



●みなさまの税務相談のご案内 [8月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
8月 2日 火	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	8月 17日 水	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)
3日 水	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	豊野支店	18日 木	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)
4日 木	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)	23日 火	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
8日 月	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	25日 木	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
9日 火	長池支店 (大豆島支店)		26日 金	本部	
16日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)	30日 火	本部	



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

